

行くぜ！全日青！



「オリンピック休戦」という言葉がある。「平和の祭典」とも呼ばれるオリンピックを通じて「スポーツの持つ力で紛争のない世界の実現を目指す」活動をいう。残念ながら、こうしている今も世界のどこかで戦争が続いているのが現実だ。

2800年ほど前の古代オリンピックは、競技者や観客が各地から開催地のオリンピアに集まっていた。開催期間中や参加者の移動にかか

る期間は、戦争を休止していたという。この故事にならい、せめてオリンピック開催期間中の休戦を世界に呼びかける、これが「オリンピック休戦」である。さて、その活動のひとつに今回の東京大会ではPEACE ORIZURUというものがある。日本人には馴染み深い「折り鶴」を争いながら世界を願いながら折り、メッセージを添えてSNSに投稿するものだ。こうし

無戦世界を目指して布教活動に邁進したい

た日本の伝統文化が世界平和への一助となつて発信されることを嬉しく思う。

実は日本国内ですでに「PEACE ORIZURU」を続けている場所がある。長崎平和公園内の「折鶴の塔」だ。ここには全国各地から数多くの千羽鶴が絶えず捧げられている。その千羽鶴の量は年間760kg。

私が長崎原爆殉難者慰霊行脚に参加した時、衝撃を受けた。同塔は原爆や戦争で亡くなられた多くの人びとを弔い、二度と戦争が繰り返されないよう、平和への願いと誓いを込めて作られた千羽鶴を捧げる場所だという。全国各地から平和への思いが届いていると聞くと胸が熱くなり、唱題行脚に一層力が入った。

本年は太平洋戦争開戦から80年を迎え、戦争を知らない世代が人口の8割を超えた。この現実を真摯に受け止め、先人の思いを受け継いで、私たちは悲惨な戦争の歴史を風化させることなく、慰霊への誠を捧げ、平和への祈りを続けていかねばならない。日蓮宗には「お題目」という素晴らしいものがある。立正安國・世界平和を願うお題目が弘まることで、一時的な休戦ではない、無戦世界へとつながることを信じ、青年僧として布教活動に邁進していきたい。

■千葉県茂原市妙樂寺住職 昭和55年4月7日生 千葉県西部青年会 立正大学仏教学部宗学科卒業